

12. <https://www.youtube.com/watch?v=qbiHsUNdt6U&t=25s> (参照 2026-1-16)

※6 クマ類による被害防止に向けた対策方針（令和6年2月8日）クマ類の生息状況、被害状況等について（参考資料1）．環境省．<https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort12/kuma-situation.pdf>（参照 2026-1-16）

※7 クマ類による人身被害について [速報]．環境省．<https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort12/injury-qe.pdf>（参照 2026-1-16）

※8 日本クマネットワーク．2025 年秋季のクマ類を巡る状況に関する現状整理．<https://www.japanbear.org/wp/wp-content/uploads/2025/11/JBN-genjyoseiri2025.pdf>

新人紹介

今年1月より関東支社へ配属となりました、松木一幸（まつき かずあき）と申します。

まず、全くの他業界から今回ご縁を頂けた事、感謝いたします。

出身は北海道 帯広市です。転勤の多い家庭だったため、北海道での居住期間は大学時代の4年間が主ですが、小中高の長期休暇中は北海道で過ごしており、“地元は？”と聞かれれば北海道と答えております。しかし住民票上は生誕～大学へ入学するまでの18年間、道民ではないと言う事になっており、原理主義派の親族には“内地の人間だろ”と指摘され続ける人生でした。

北海道の大豪農に憧れ農業高校へ進学したものの新規就農のハードルは高く、大学進学へ進路を方向転換、東京農業大学（北海道キャンパス）へ進学いたしました。

大学では、主に水圏の生物について学び、1年次から海棲哺乳類に関する研究をしていた研究室を出入りしていた事もあり、同研究室で鰭脚類とそれらへ寄生するハイダニ科を研究対象としておりました。

フィールド調査やラボ作業だけ参加していたものも含めると、海棲哺乳類を対象としたセンサス・消化管寄生虫の寄生状況調査・生殖器（精巣）を用いた性成熟の状況調査、陸上動物ではエゾユキウサギの糞中 DNA に関する調査など幅広く手を出して

いました。

元々、生き物への強い興味があり大学でもそれらについて学んでおりましたが、大学卒業後は無人潜水艇（ROV）のパイロットや海底ケーブルの接続技術者として働いたり、環境コンサルティング会社で海底資源探査や深海生物探査をしたりなど、本当に全く関係のない業界に身を置いておりました。

日常的に何か月もの期間、洋上や海外の僻地へ出張していた事もあってか、帰国日の電車内で SNS や動画配信サービスを利用している若者を見る度、“スマホの通信規格を 2G にすれば出張が減るのでは？！”などと突飛な考えをする事も多々ありましたが、様々な国や地域の人々の役に立っているというやり甲斐を感じながら日々勤めておりました。

そんな洋上へのお出張中、WMO の職員募集情報を知り、“やはり自分は生き物に関わる仕事がしたい”と強く認識し周囲数百キロ何もない洋上から応募致しました。

未経験の業界ですので、業務を進めるうえでの手技や作法をご指導していただきつつ、これまでの経験も活かしたら最良と考えております。

皆様から頼りにされる存在となる事を目指し精進いたしますので、ご指導ご鞭撻をいただけますと幸甚に存じます。